

(1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
<p style="text-align: center;">学 習 指 導</p>	<p>中期重点取組の1 「教科指導の充実と授業改善を進め、生徒の学力向上と確かな学力の習得に取り組みます。」 ◎高い目標(9割が国公立大への進学を志望)の実現を目指して、粘り強く努力する姿勢を大切にしている指導をします。〔普通科・理数科〕 (3学年) 【取り組み状況の指標】 生徒の粘り強く努力する姿勢の妨げとなる不安や焦りを解消するために、節目ごとの学年集会、個人の面談の実施と、月間目標の掲示、学年通信の発行に取り組みます。 【達成状況の指標】 〔普通科・理数科〕 生徒たちの多くが志望している国公立大学の合格数が、普通科・理数科卒業生数の4割以上の達成を目指します。</p>	<p>【達成状況・評価結果】 〔普通科・理数科〕 国公立大の合格状況が確定するのは3月末なので、センター試験の受験結果という中間報告的なものに替えたい。 センター試験には317名中313名が出願し、当日欠席の1名を除き、312名が受験した。センター試験自己採点では、900点満点中600点以上の人数が117名。昨年度の123名には及ばないものの、県下では4番目の人数であり、一クラス多かった三年前の102名を上回った。学年のほぼ全員がセンター試験を受験したということは、生徒たちがセンター試験を一つの目標として粘り強く努力を続けたということで、国公立大合格数以上の意味があったと考える。</p>	<p>【具体的取組に関する成果や課題】 〔普通科・理数科〕 学年通信(最終的には25号)、学年の連絡ボードを通しての呼びかけ、学年集会、面談など、それぞれの狙いを明確にし、効果的に行うことをめざして一定の成果はあげることができたと考える。 低学年時から難関大志望者への働きかけを継続し、今年度は「名大チャレンジサポート」として名大受験に絞った指導を年間を通して8回の企画として実施した。名大20名合格という高い目標が進路指導部より提示され、生徒も粘り強く取り組んだが、センター試験の結果を見て、他大学に変更した生徒も少なからずいたので目標達成は厳しいかもしれない。より高い目標を維持して努力できる集団にするためには、どのような指導が必要であるかを考え、全体として実践してゆくことが必要であると考える。</p>
	<p>中長期重点目標の4 「社会の変化に対応した教育活動に取り組みます。」 ◎生徒間の対話を深め、気づきが得られるようなキャリア教育の視点を取り入れた「総合的な学習の時間」の計画を考えることで</p>	<p>【達成状況・評価結果】 ・対話と気づきを大切にする各学年の取組はすべて予定通り行った。校外研修ではチームで写真を撮ってくる取組も継続して行い、生徒の取組も上々であった。</p>	<p>【具体的取組に関する成果や課題】 ・個々の取組においては、生徒たちも積極的に楽しそうに参加してくれていた。 ・達成状況の指標から、数値は上昇してきたものの、目標の80%にはまだ届いていないことなどから、</p>

	<p>生徒の持つ思考力・発信力をより高め、協調性とリーダーシップを兼ね備えた状態を目指します。 (教務部)</p> <p>【取り組み状況の指標】 1年生は学部・学科研究を利用した自主活動を、2年生は修学旅行での班別行動をつかった自主活動を、3年生は校外研修会を使った自主活動を行います。また、対話と気づきが大切であることを訴える講演会を実施します。</p> <p>【達成状況の指標】 「総合的な学習の時間」を振り返った生徒アンケートの中で、「この授業を通じて自身の成長が図られましたか」の項目で「はい」を選択する生徒が8割を超えることを目標とします。</p> <p>定時制</p> <p>【取組状況の指標】 ・1, 2年において国語・数学・英語の3教科で 習熟度に応じた特別授業を実施し、基礎学力の向上を図ります。</p> <p>【達成状況の指標】 ・生徒満足度80%を目指します。</p>	<p>卒業生による講演会、パネルディスカッションは3月に行う予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成の指標としては、「はい」を選択する生徒の割合が、8割を超えることはできなかったが 24年度 68%、25年度 73%、26年度75%、27年度77%と徐々にではあるが、上昇傾向である。 <p>【達成状況・評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年生において3教科で実施。 ・生徒の満足度は平均して80%。 ・昨年より満足度がやや上がっているが、生徒の意欲を引き出す方法について改善が必要である。 ・質問しやすい等の意見が多数である。 	<p>質の向上・目的の明確化を図っていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、1年次に行う自主活動について、学部学科研究に特化して活動を行った。その結果、生徒の進路選択に大いに役立つものとなった。グループディスカッション、パネルディスカッションという生徒の言語活動を伴う内容なので時間の確保、時期の設定等なお一層効果が上がるように取組を深化させたい。 <p>【具体的取組に関する成果や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3展開しているが、学力のばらつきが大きくさらに細やかな対応が必要である。 ・基礎学力を高める取り組みに対して、意欲を失う生徒も見られるため、教材の工夫についてより一層の取組が必要である。
<p>活 指 導 人 権 教 育 ・ 生</p>	<p>中長期重点取組の3 「生徒指導、人権教育、健康教育を充実させ、生徒の豊かな人格形成に取り組みます。」 ◎差別に気付く豊かな心を育み、人権問題の解決を目指して、協調性と積極性を持って</p>	<p>【達成状況・評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「命の大切さ」をテーマにした人権講演会後の感想・アンケートにおいて、参加した全ての生徒から肯定的な意見・ 	<p>【具体的取組に関する成果や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権便りは計画通り、3月発行予定を含め、計5回発行することができた。講演会やロングホームルームの生徒の意見をもとに振り返り

取り組めるよう指導します。

(人権教育)

【取り組み状況の指標】

- ・人権便りを年5回以上発行し、生徒の日常に生じる内容を取り上げ、人権推進教育を身近に感じられるように促します。
- ・人権講演会を実施し、生命・人権を尊重する心、他人を思いやる心、共に生きる豊かな心を育みます。
- ・人権ロングホームルームを実施し、生徒が主体的に話し、相手を受容することができるよう指導します。

【達成状況の指標】

人権講演会・人権ロングホームルーム後の感想・アンケートにおいて、肯定的な意見・感想などが8割を超えることを目指します。

◎心身の成長期にふさわしい基本的生活習慣の確立を目指し、自主・自律した生活が送れるように指導を行います。

(生徒指導部)

【取り組み状況の指標】

平常授業時には毎朝10分間校門(北門)にて遅刻指導・服装指導を行い、基本的な生活習慣の確立を身に付けさせます。また定期考査時には全職員で通学路にて登校指導を行います。校内ではあいさつの励行、身だしなみを整えるFormal Week運動を実施し品格を備えた桑高生を育みます。そして年3回全職員体制で頭髪服装指導を実施し身だしなみを整える指導を行います。

感想を得ることができた。世界の医療の現状を知ることを通して、また国境なき医師団として活動される先生の体験談を聞くことを通して、自分を見つめ直し、生命や人権を尊重して豊かに生きることの大切さを考えることにつながった。

- ・「性のあり方の多様性」をテーマにした人権ロングホームルーム後の感想・アンケートにおいて、数名の生徒から批判的な意見があったが、多くの生徒にとって自分らしく生きることの大切さを考える機会になり、相手を受容することの大切さを考えることにつながった。

【達成状況・評価結果】

1月現在の遅刻者総数は各学年とも例年を下回る人数であり基本的な生活習慣の定着がみられる。登下校時の交通マナー等に関連する苦情も年々減少傾向である。品格の向上を目指した服装指導の取り組みにより身だしなみを整えるという意識としては変化が感じられる。

をしたり、生徒の日常に生じる何気ないことや、特別支援学校との取り組みについて取り上げたりすることで、人権教育を身近に感じることに繋がったと思う。

- ・生徒の感想やアンケートからは、それぞれのテーマごとに多くの気づきや学びを獲得することができたと思われるが、講演会とロングホームルームのテーマのつながりが薄かったために、全体を通して生徒への浸透は浅くなってしまったと考えられる。年間を通して系統立てて、人権教育を進めていけるよう、今後のテーマ設定を検討していきたい。

【具体的取組に関する成果や課題】

更なる遅刻生徒数の減少を目指し遅刻指導を今後も継続して取り組んでいく。交通マナー等の苦情は減少傾向であるが交通事故件数は減少傾向とは言えない現状である。交通安全に関する講話等を集会時に行うことや登校指導を定期的実施し交通事故件数の減少を目指す。制服を正しく着用し身だしなみを整えるという意識としては以前より変化が感じられるが日常的に定着している状態ではなく今後の課題とし新たな取組方法を検討し、更なる品格の向上を目指し取り組んでいく。

	<p>【達成状況の指標】 特に女子生徒のスカート丈の適正な長さでの着用を定着させることに重点を置き、服装指導時においてスカート丈の適正な女子生徒数が95%以上になることを目標とします。</p> <p>【定時制】</p> <p>【取組状況の指標】 ・生徒の「生きる力」醸成のために防災・環境・安全・健康・人権等に関する総合学習を年間35時間以上実施します。</p>	<p>【達成状況の指標】 ・生徒満足度について4段階でA、B合わせて90%以上を目指します。</p> <p>【達成状況・評価結果】 ・年度末までに28回、41時間実施する予定である。 ・生徒満足度については2/16現在、94%である。</p>	<p>【具体的取組に関する成果や課題】 ・今年度はいのちの学習で心臓マッサージやAEDの取扱いについて体験し、地元の住民の方に参加してもらい起震車による地震体験を行うなどの取組をすることができた。人権教育では、車椅子と高齢者疑似体験を行った。 ・例年「総合的な学習の時間」については満足度が高く、生徒の出席率も良い。</p>
<p>進路指導</p>	<p>中長期重点目標の2 「入学から卒業までを見通した進路指導により、生徒の進路希望の実現を図るとともに、勤労観や職業観を身につけるキャリア教育の体系化を促進します。」 ◎キャリアデザインを通じたコース選択や志望校の決定をし、第1志望校の合格を実現します。 (進路指導部) 【取り組み状況の指標】 校内大学説明会の充実を図ります。 キャリア教育の視点から教務部と連携して総合学習の年間計画を見直します。 難関大の中でも希望者が多い名古屋大学への進学対策講座「名大チャレンジサポート」を実施します。 【達成状況の指標】</p>	<p>【達成状況・評価結果】 ・1年生向け説明会は文理選択を控えた10月に、三重大から5学部6学科の先生を招き、普通科・理数科全員参加の分科会形式で実施した。 ・2・3年生向け説明会は、7月に名古屋大学から3学部を招いて実施した。今年度は文学部・工学部・理学部に依頼し、参加者はそれぞれ17, 33, 36名であった。また、今年度新たに三重県立看護大を招いて、6月に看護職一般についての講演会を開催し、29名の参加があった。 ・終了後に、①大学学部について理解できたか、②大学学部について関心が高まったか、③自らの進路を考えるきつ</p>	<p>【具体的取組に関する成果や課題】 ・2, 3年生向け説明会は意識が高い生徒が参加しており、参加者の満足度は高いが、参加人数がやや減少傾向である。2年続けて同じ内容にならないよう学部を変えて実施をしているが、開催日時や内容について生徒にとってより魅力的なものになるように計画したい。 ・名大チャレンジサポートについて、昨年度、合格可能性が十分あるのに出願に至らなかった例や、合格可能性が高いと思われた生徒が不合格であった例が複数あったことを踏まえて、センター試験後に二次対策の課外を2週にわたって実施することにした。名古屋大学に限らず、第一志望校合格に向けてセンター後から二次試験まで学校としてどのようなサポートができるかが重要と考えるが、この時期の取組</p>

説明会、進路講演会の事後アンケート結果において全項目3点以上（4点満点）
国公立大学現役合格者数が、普通科・理数科卒業生数の4割以上
名古屋大学現役合格者数が15名以上
3学年4月の調査における第1志望校に現役で合格した生徒が普通科・理数科卒業生数の2割以上

◎授業や校外の研修を通して自然科学や技術開発への関心を高め、将来的に地域社会のリーダーになれる資質を身につけさせる。
(理数科)

【取り組み状況の指標】

継続的な教科指導や課題研究活動、Mie SSH事業等を利用した校外の研修活動などへの取り組みを通して、理系キャリア教育の充実を図ります。

【達成状況の指標】

授業や校外の研修における理数科生徒の満足度の「やや満足」以上が80%になることを目指します。

かけになったかの3項目について1,2,3,4の4段階評価でアンケートを行った。

- ・名大チャレンジサポートについて、初回は55名、夏課外は50名、1月は16名の参加があった。
- ・進路講演会は3月のため、年度末に評価を行う。
- ・国公立大、名大、第一志望校への現役合格数の達成状況は年度末に評価を行う。

【達成状況・評価結果】

- ・4月15日：理数科縦割りガイダンス（3年生による1年生対象のガイダンス）
- ・4月15日～2月3日：理数科課題研究 → 満足度85%
(2年生によるテーマ設定、研究活動およびプレゼンテーション活動)
- ・7月23日～25日：夏季理数科合宿 → 満足度77%
(滋賀県大津市における、英数国の授業、理科実験、琵琶湖博物館や立命館大学研修)
- ・10月10日：桑高体感講座（1年生有志による中学生対象の実験講座）
- ・10月～11月：秋季理数科校外研修（2

みについてはまだまだ改善の余地が大きいと思われる。

- ・総合的な学習の時間の年間計画について、他の分掌とも協力しながら、キャリア教育の視点から位置づけやつながりを重視して再構築することができた。次年度以降は、高大接続改革の目指す方向にも対応した内容となるようにしていきたい。

【具体的取組に関する成果や課題】

- ・理数科縦割りガイダンス：初めての試みであったが、1年生が3年生と交流を持ち、桑高理数科の活動に触れることは、意識の高揚に繋がっていると考えられる。内容を検討しながら、継続していきたい。
- ・理数科課題研究：4年目を迎えた課題研究では、授業時間や担当教員などの形式について、教務と相談しながら改善を加え、研究内容や進め方については担当教員と連絡を取りながら取り組んだが、教科や研究分野の違いから担当教員にゆだねる形になった。今年度、「生徒によるテーマ設定」に拘ってみた。生徒たちの活動を深めることはできたが、日程が厳しくなったために研究発表会の準備が非常に窮屈になった。来年度に向けて改善が

	<p>◎看護師国家試験全員合格を目標とし、思考力や判断力を養うとともに、自主的、主体的な学習習慣を確立し、学力の向上・定着を図る。 (衛生看護科)</p> <p>【取り組み状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に取り組む姿勢を育てるため、課題学習の工夫・改善を図り、課題提出を徹底させます。 ・学習の具体的目標を持たせるため、各テストを計画的に実施し、その結果を踏まえて生徒個々に応じた個別指導を行います。 ・専門領域の充実と、職業観育成のために外 	<p>年生は11月2日に豊田工業大学、11月6日に四日市オキシトン、1年生は10月13日に本田技研工業鈴鹿製作所) → 満足度92%</p> <p>【達成状況・評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より、課題学習の機会を増やし、実習、演習前には課題提出をクリアし、望むこととした。 結果、最初と比較すると、授業(実習、演習)の流れが定着してきた。事前課題を以て、事後課題の提出が形づいてきたが、日々の学習時間に関しては「1時間以上」のものは80%を超えなかった。 ・模擬テストに関しては、個別データをもとに個別面談を実施し、今後の課題を明確化させ、次に向けての目標を新 	<p>必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季理数科合宿 : 桑高理数科の特色ある活動の一つとして位置づけ、琵琶湖畔での実施を継続していく予定である。今年度のアンケートからも、研修場所、内容に対する工夫の重要性を感じる。 ・桑高体感講座 : 今年度から1年生による取り組みとし、より多くの生徒のコミュニケーション能力の向上を目指して、2種類の講座を同時開講(参加中学生90人程度)とした。取り組んだ生徒たちには概ね好評であった。 ・秋季理数科校外研修 : 理系キャリア教育の一環として、本校も高大連携を進めてきたが、その先にある産学連携の推進を意識して取り組んできた。生徒の評価も好評で、今後も地元企業との連携を推進していきたい。 <p>【具体的取組に関する成果や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、自分の進路に向けて継続的にかつ自主的に取り組む姿勢を身につける。また、日々の学習に取り組む姿勢、習熟度を常に意識し、学習状況が形骸化しないように分析、指導にあたる必要がある。
--	---	---	--

	<p>部講師を招いてキャリア教育の充実を図ります。</p> <p>【達成状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題の充実を図り、また、期日までに提出できる生徒の割合が100%になることを目指します。 ・学習状況調査において、日々の学習時間「1時間以上」と80%以上の生徒が回答することを目指します。 ・国家試験合格率100%を目指します。 <p>定時制</p> <p>○進路指導</p> <p>【取組状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じた進路指導を実施し、主体的に進路を選択できる力を身に付させます。 <p>【達成状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の有職率80%を目指します。 	<p>たに設定させる機会とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門領域の充実に関しては、高校生の段階から、公衆衛生、外科領域の看護等、専門の講師を招いての授業が実施でき、生徒からの授業評価も良かった。 <p>【達成状況・評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3回のキャリア教育を実施した。 第1回：「服装基礎講座」と題し就職進学等で必要な服装の講座及び実習 第2回：地元企業の説明会の実施 第3回：職業別体験学習 ・生徒の有職率は2月16日現在で76%となっている。 	<p>【具体的取組に関する成果や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人生徒をはじめ多様な生徒が在籍しているため、桑名ハローワークの助けも借りながら一層効果的なキャリア教育の充実をめたい。 ・様々な状況の生徒が増えてきているが、今年度は目標の有職率80%を少し下回った。 ・今年度から全校基礎学力テストを実施し、教科学習のみでなく、進路指導等にも活用できた。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学校運営</p>	<p>中長期重点取組の5</p> <p>「働きやすい職場環境を作るため、総勤務時間の縮減に取り組みます。」</p> <p>◎生徒が生き生きと学校生活を送れるように、また教員が生徒とかかわる時間を十分確保できるように、教員間の連携を図り、業務や会議などの精選・効率化に取り組みます。</p> <p>(総務部)</p> <p>【取り組み状況の指標】</p>	<p>【達成状況・評価結果】</p> <p>職員満足度調査結果より</p> <p>①自由に意見を言えるような雰囲気はありますか。→ 数値2.7(昨年2.8)</p> <p>②職員間の対話は活発に行われていますか。→ 数値2.8(昨年2.9)</p> <p>③同僚と相談しながら仕事を進めていく体制はできていますか。→ 数値3.0(昨年3.1)</p>	<p>【具体的取組に関する成果や課題】</p> <p>数値が下がった理由として多忙化があげられる。その為、メールや電子掲示板等での連絡のやり取りが増加。直接対話をする機会が不足という現状にあると思われる。今後も引き続き、業務や会議などの精選や効率化に取り組み、職員がゆとりをもって仕事が行えるような職場づくりに取り組みます。</p>

・企画委員会を通して分掌間の連携を図りま
す。

・同僚と相談しながら仕事を進めていける職
場づくりに取り組みます。

・デスクネッツ（電子掲示板）を有効に利用
し会議時間の短縮に取り組みます。

【達成状況の指標】

職員満足度調査の人間関係の項目

①自由に意見を言えるような雰囲気はあり
ますか。

②職員間の対話は活発に行われていますか。

③同僚と相談しながら仕事を進めていく体
制はできていますか。

以上の数値 3.0 以上を目指します。

◎職員間のコミュニケーションをより活発
にすることで、目指す学校像実現に向けた
アイデアを出し合い、仕事を楽しく感じら
れる職員連携を構築し、多忙感の解消を目
指します。

（「明るい桑名高校プロジェクト」（AKP）
委員会）

【取り組み状況の指標】

①教科指導の向上につながるような企画・研
修を行います。

②多くの職員が参加する『望年会』（忘年会）
を作り上げます。

③多忙感や負担感を解消し、コミュニケーション
を活発にするようなAKP通信を、年間
6回以上発行します。

【達成状況の指標】

職員満足度調査で、

どの項目も昨年より数値が下がり目標値
に達しなかった。

【達成状況・評価結果】

職員満足度調査について（昨年度⇒今
年度）

① 授業改善を進めていこうとする
雰囲気が感じられますか（2. 9
⇒2. 8）

② 学校全体として、自由に意見を言
えるような雰囲気はありますか。
（2. 8⇒2. 7）

③ 前年度に比べ、仕事が精査されて
きたという実感はありますか。
（2. 4⇒2. 1）と、

いずれも前年度を下回った。昨年の評
価が軒並み高かったこともあるが、全体
的に下がった事実は重く受け止めていき

【具体的取組に関する成果や課題】

職員満足度調査について特に大きな下がり
を見せたのが、「仕事をする上で必要な情報が共有
されていますか？」が2. 9⇒2. 6、「仕事が
精査されてきましたか？」が2. 4⇒2. 1と0.
3ポイント下回っている。（他は微増、微減）分
掌間、学年間、また管理職との協力体制は常に必
要と感じた結果であったように思う。

昨年度に引き続いて‘望’年会は参加人数も多
く今後も継続して行いたい。また今年度から始め
た職場改善支援事業は大変好評をいただいたの
で内容は随時検討しながら今後も行っていき
たい。AKP通信は3回しか発行できなかった
ので、内容も含めて次年度以降話し合ってい
きたい。尚、職場研修会は3月に行う予定である。

	<p>①授業改善を進めていこうとする雰囲気を感じられますか（昨年2. 9）</p> <p>②学校全体として、自由に意見を言えるような雰囲気はありますか。（昨年2. 8）</p> <p>③前年度に比べ、仕事が精査されてきたという実感はありますか。（昨年2. 4）</p> <p>の3つの項目について昨年より高い数値をとることを目標とします。</p>	<p>たい。特に③の下がり大きい。</p>	
--	---	-----------------------	--

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強 み	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導・進路指導が体系化、組織化されている。 ・授業改善推進の気風がある。 ・文武両道を目指した指導に取り組んでいる。 ・同窓会をはじめ、PTAからの支援が充実している。
弱 み	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、みだしなみ等、生活指導に対する組織的な取組が不十分である。 ・地域との連携が弱い。 ・施設、設備の老朽化。

(3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
<実施回数>	2回

実施内容	<p>①第1回 平成27年6月17日(水) 校長挨拶に続き、学校関係者評価委員長を決定した。本年度の学校経営の改革方針について、校長より説明した。その後、進路指導部、総務部、教務部、生徒指導部より現状報告を行った。また、人権教育担当より、人権教育指針計画ならびに人権カリキュラムについて説明を行った。更に、定時制と衛生看護科の状況について教頭より報告を行った。その後、教育活動全般について協議をおこなった。</p> <p>②第2回 平成28年2月17日(水) 学校関係者評価委員は5名が出席。校長より学校の近況を説明。引き続き、教務部、進路指導部、生徒指導部、総務部、人権教育担当より、年間反省報告を含めて現状報告を行った。また、定時制と衛生看護科に関して教頭より報告を行った。今年度は、各部の報告の後、評価委員の方にコメントをいただいた。最後に、学校自己評価について説明を行い、学校関係者評価委員より、学校の状況や自己評価について、意見等を伺った。</p>
-------------	---

(4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ学ぶのか、という問いかけに対する答えを教員は自分自身の中でしっかり持ち、この根本的なところを意識して取り組んでいただきたい。 ・目に見える形で生徒たちにキャリアビジョンを描かせることが大切である。 ・生徒の目標の高さに感心するとともに、勉強以外でも頑張っている生徒がいることが理解できた。 ・いつまでもこの学校を卒業してよかったと、大人になって思えるような学校にしてもらいた。

(5) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・生きる力のベースとなる「何のために学ぶのか」ということを基本に据え、授業改善の取組を進め、組織的に授業力の向上に取り組んでいく。 ・キャリア教育の体系的な指導計画を構築する。 ・校内のICT化を推進していく。 ・地域との連携をなお一層強化し、情報の共有化を推進する。 	